

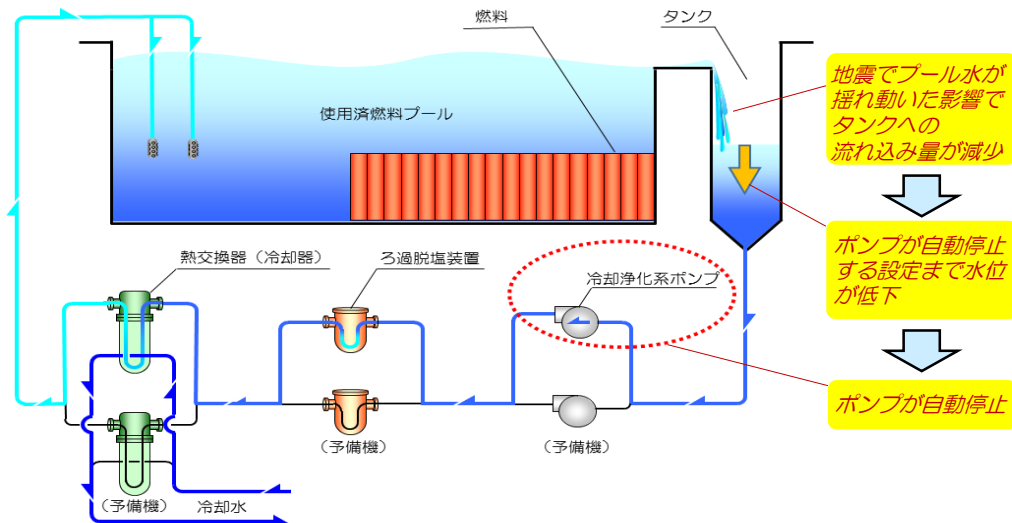
福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成28年11月号）

・1～4号機は、燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

11月22日に発生した地震におけるプラント状況

- 11月22日午前5時59分、福島県沖を震源とする地震が発生しました。
- この地震の影響で午前6時10分頃、3号機の使用済燃料プールを冷却する系統のポンプが自動停止し、燃料の冷却が一時的に停止しました。
本件につきましてご心配をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。
- 同ポンプは、使用済燃料プールの水が地震で揺れ動いた影響でタンク内の水量が減り、タンク水面が低下したために設計通り停止したもので、設備の故障や冷却水の漏えいがないことを確認後、午前7時47分頃、ポンプを起動し、プールの冷却を再開しました。
- 今回の冷却停止に伴うプラントへの影響*はありませんでした。
- なお、その他のプラントや設備に異常はなく、モニタリングポスト等の値に有意な変動はありませんでした。

* 冷却停止による温度上昇率は0.2℃/時で、保安規定で定めている運転上の制限値（65℃）までは約7日間の余裕があります。今回の停止期間での温度上昇は、0.2℃（29.3℃→29.5℃）でした。



原子力防災訓練を実施しました（10月26日）

- 10月26日、原子力災害発生時に事態の収束や復旧など、的確な対応ができることを確認するため、当発電所約280名、本社約180名の対応要員が参加した原子力防災訓練を実施しました。
- 訓練は、原子炉建屋への航空機衝突による火災の発生に加え、使用済燃料プールの水位が監視できなくなる状態や外部電源の喪失などを想定したシナリオ（訓練参加者にはシナリオ非開示）で行いました。



緊急時対策本部



自衛消防隊による消火訓練



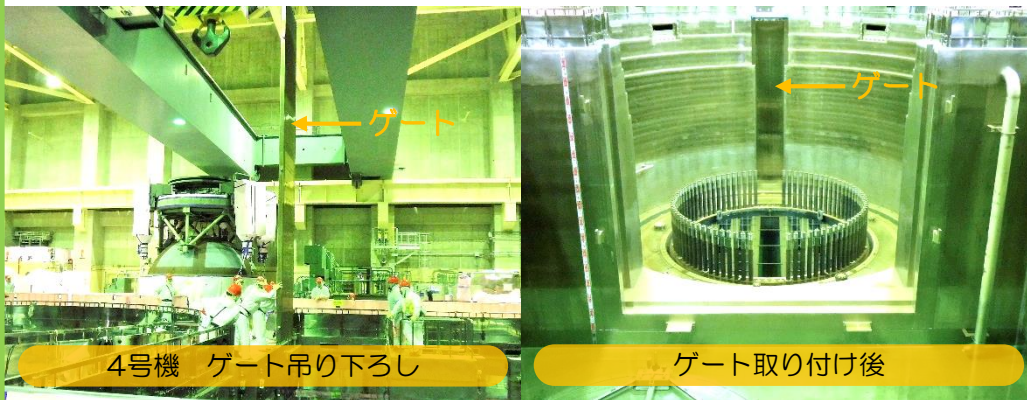
電源車の取り扱い訓練



周辺地域への広報車の出動

4号機で使用済燃料プールゲートを 閉じる作業が完了しました

- 1～4号機のすべてのプラントにおいて、原子炉内にあった燃料は使用済燃料プールへの移動が完了しています。
- 4号機での使用済燃料プールゲート*を閉じる作業は11月7日に完了し、11月18日までに関連作業がすべて完了しました。



4号機 ゲート吊り下ろし

ゲート取り付け後

- これら一連の作業が完了したことで、すべてのプラントにおいて、燃料を冷却する範囲が使用済燃料プールに限定され、冷却水の漏えいを防ぐ観点からも、より確実な燃料冷却が可能となりました。

*プールゲート:使用済燃料プール側と原子炉側とを仕切るためのステンレス製の板

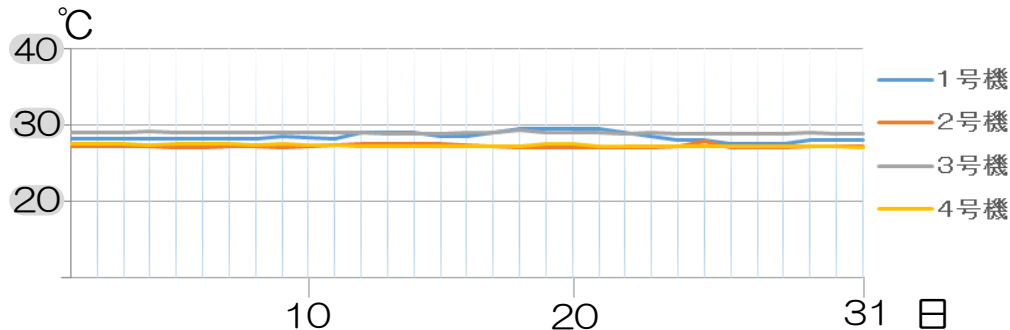
編集者からの一言

- 先日の昼下がり、ふと窓の外に視線を移すと、事務本館正面玄関前のケヤキが鮮やかに色づいていました。
- 秋の深まりとともに、寒さが募る今日この頃です。

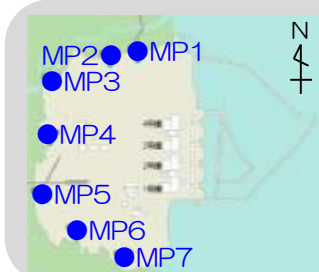


燃料の冷却状況(10月分)

使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で推移しており、燃料を安定的に冷却しています。



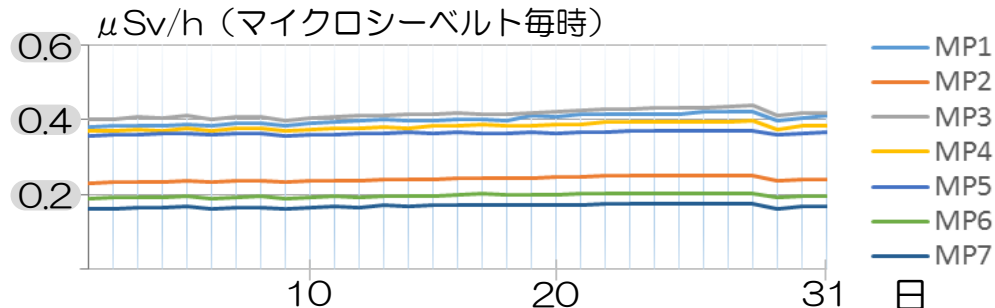
発電所周辺の放射線量計測状況(10月分)



構内に設置している全7基のモニタリングポスト(MP)により、敷地周辺における空気中の放射線量の測定を常時行っています。

◇天気と放射線の関係

空気中の放射線量は、天気によって変動します。一般に、雨が降ると空気中の放射性物質が地表に落とされ放射線量が上昇します。一方、雨による水たまりや積雪ができると、大地からの放射線が水や雪によって遮られ放射線量が低下します。



使用済燃料プール水温度やモニタリングポストのこれまでの計測状況については、当発電所ホームページをご覧ください。

ホームページURL

<http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>

